参考資料１

2021 年 11 月 26 日

ふじのくにフロンティアを拓く取組の全体構想改定について（意見書）

（一社）静岡県経営者協会
専務理事 秋山辰巳

まず、今回の計画改定ですが、コロナやカーボンニュートラルなど社会を取り巻く環境が大きく変わったことを踏まえると、予定していた改定時期の前ですが、良いタイミングであると考えます。社会環境が大きく変わる時、県民が進むべき方向を先んじて示すことは、将来の不安を軽減し、次のステージの地域づくりがスムーズになると思います。

一方、第２期の目標である推進エリアの形成が完全に終了したわけではなく、各事業のフォローをしっかりとしていくことが必要だと思います。推進エリア形成事業の中には、市町を超えた取組みもあり、見方を変えれば、第３期で掲げられた地域循環の第一歩の取組みとも捉えることができます。第３期を見据えて、第２期で進めてきた事業をしっかり着地させることを期待します。

第３期の構想について申し上げます。まず、環境に着目している点、それを地方で率先して取り組もうとしている点はたいへん良いと思います。積極的に推進してもらいたいと考えます。一方、次の３点が気になりました。

１点目は、具体的な理想像が分かりにくいということです。そもそもエネルギーや環境など具体的に把握しにくい対象のため仕方がない点はありますが、それだからこそ具体像がなければ、県民の理解や認識が異なってしまう可能性があります。例えば、ある地域のすべての建物にスマートメーターを付け、地域全体でエネルギー効率の最小化を図るといったモデル事業を進めるなど、県が先導して先進事例づくりを積み重ねていくことが必要ではないでしょうか。

また、構想のコンセプトとして掲げられている、「スーパー・ランドスケープリージョン（絶景美の交流圏）」もイメージしにくい内容です。各地域の取組の方向性の内容にも言及がありません。この点も、具体的な理想像を提示して欲しいと思います。

２点目は、課題整理です。コロナが収束していない中、今回の構想は、アフターコロナよりさらに先の時代を見据えた内容が多く含まれています。企業にとっては、まず、目の前の大きな課題であるコロナ後の社会に対応しなければなりません。コロナ後の課題については、どのように整理されているか知りた

いところです。今回の主要施策の柱に、「４．産業構造の転換に向けた取組」「５．人材の育成とオープンイノベーション」が盛り込まれています。これまでの計画と比べて、経済産業政策に重点を置くようになっているように感じます。アフターコロナへの対応として、こうした内容を盛り込んだかもしれませんが、あわせて説明していく必要があるのではないでしょうか。

３点目は、国の特区制度との関係性です。ふじのくにフロンティアを拓く取組は、国の特区制度に認定され、規制緩和や利子補給などさまざまなツールの活用が可能でした。今回の計画で加わった、地域循環共生圏の取組みにも、特区制度の利用は可能なのでしょうか。規制緩和で言えば、これまでは土地利用が中心だったと思いますが、新たに環境分野も加わることなります。環境分野は土地利用と比較して関係省庁や法令が多岐に渡ることが予想されます。特区制度の活用をどのように考えているのでしょうか。

最後に、今回の構想改定は、これまでの方向性を大きく変えるものです。とくにテーマが環境分野であることから、県民一人ひとりの意識・取組みに掛かっているといっても過言ではないと思います。県民に構想・計画の狙いや考え方をどのように伝えていくかが重要になります。今後、全庁を上げて、県民、企業や県内市町に周知していただきたいと思います。

以上